

第55回国立大学図書館協会総会ワークショップ A 議事要旨

日 時 : 平成 20 年 6 月 26 日 (木) 13 : 30 ~ 16 : 00
会 場 : 仙台国際センター 大ホール
テーマ : 学習・教育支援を強化するために大学図書館は何をなすべきか
司 会 : 逸 見 勝 亮 (北海道大学附属図書館長)
記 録 : 五十嵐 哲 郎 (北海道大学附属図書館事務部長)
杉 田 福 夫 (北海道大学附属図書館情報システム課長)

第 1 部 発表と討論

- 1) 片山大阪大学附属図書館図書館企画課長より、「大学図書館における「場」としての機能再生：多様化と活性化」と題して、学習・教育支援を考える際には、ラーニングコモンズやカフェといった施設や設備を整えることや、単に入館者数を増やすことではなく、学生志向のサービスや機能を考え実現することが大事であるとの発表が行われた。

木村東京外国語大学附属図書館情報図書館課長（指定討論者）から、入館者数の増減だけではなく、入館して何をしたかの観点が必要などの意見が出された。会場からは、図書館にきた学生の数だけではなく、入学したが図書館を利用していない学生について着目することも必要ではないかとの意見が出された。

- 2) 内島金沢大学情報部情報企画課長より、「学生生活のサイクルと共存する大学図書館施設 - 金沢大学自然科学系図書館の場合」と題して、金沢大学の自然科学系図書館の、学部・大学院と有機的・機能的に連携した複合施設としての特徴等について発表が行われた。

木村課長と内島課長の間で、複合施設としてのセキュリティについて、単独施設より難しい面があり、大学全体の動線のなかで考えることが大切であるとの意見の交換等が行われた。会場からは、24 時間開館及び選書に関しての図書館職員の役割、3 館の調整について質問が出され、意見交換が行われた。

- 3) 司会者から、入館者数については、増減だけにとらわれることなく、学生の利用状況をどう考えるかが課題である。図書館を利用しない学生の把握も含めて大事な視点である、図書の選定に関して教務・学務部署と図書館との協力がある、あるいは持とうとしているかは重要な点であるとのまとめが行われた。

第 2 部 事例報告及び討論

- 1) 事例報告 1 「フュージョンセンター機能の図書館をめざして - 図書館増築、改修の事例」と題して、山田北見工業大学図書館情報図書館課長より、経済産業省の補助事業として、教育環境の高度化推進、地域の知の拠点として地域社会への貢献を目的に整備した事例の報告が行われた。

- 2) 事例報告2 「図書館マネジメントから見たラーニング・コモンズ - ラーニング・コモンズでお茶大図書館は何が変わったのか!？」と題して、茂出木お茶の水女子大学附属図書館図書・情報チームリーダーより、増改築なしの部分改装により、学生スペース、書庫スペースの拡大を実現した施設・設備の改善事例の報告が行われた。
- 3) 事例報告3 「横浜国立大学中央図書館」と題して、熊淵横浜国立大学附属図書館図書館情報課長より、中央図書館改築におけるフロア・コンセプト、入館者数の推移などについて報告が行われた。
- 4) 事例報告4 「学習・教育支援を強化するために大学図書館は何をすべきか - 建物耐震改修工事からの報告」と題し、多田名古屋工業大学附属図書館長より、工学分野の専門図書館としての改修にあたってのコンセプト、IT 関連改善、今後の課題などについて報告が行われた。
- 5) 事例報告5 「長崎大学の事例 - 学習・教育の場としての図書館」と題して、郷原長崎大学附属図書館学術情報サービス課長より、新たにオープンしたライブラリーラウンジ、メディアルーム及び利用者数の増加などについて報告が行われた。
- 6) 5 件の事例報告について、図書館と教員との関わりについての質問、図書館に多様な機能を集めて利用者の増加をはかることはショッピングモール化しただけとの問題提起があった。これに対して出された主な意見は次のとおりであった。
- ・入館者数の増加だけでは、ショッピングモール化した図書館の評価には不十分である。
 - ・学生の学習する上での満足度の調査が必要である。
 - ・従来のままの図書館で変わらないで良いのか。24 時間開館するスペースも必要ではないか。
 - ・24 時間開館は、教育の機能として必要なのか。
 - ・学生が自ら学習の場を求めなくなっているので、ショッピングモール化が必要となっている。
 - ・教育、特に授業と図書館の関わり観点が教員には欠けている。
 - ・学生の能動的な学習を促すことが重要である。
- 7) 司会者より、それぞれの大学図書館の置かれている状況の中で、図書館の改修を機に根本的に考える機会になっているが、学生の教育に関して、制度として図書館職員が教育上の議論の場である教務・学務関係委員会等との関わりを持つことは重要、ショッピングモール化の議論は今後も続くであろう、多くの大学の事例を聞いた方が良く、との感想が述べられワークショップを終了した。